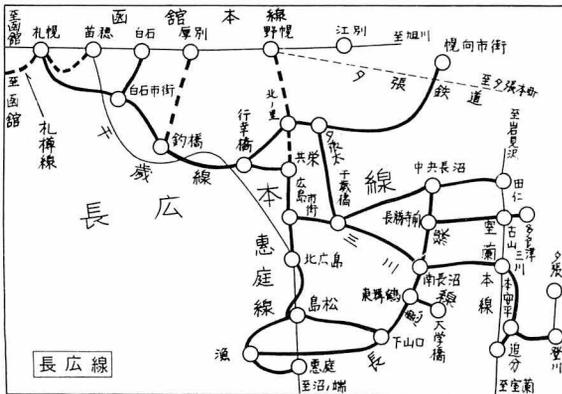


ちょうきょり

当該普通恩給に相当する給付を行う。未帰還更新組員が旧退職年金受給資格を有する者であるときは、その者の留守家族で留守家族手当を受けることができる者に対し、その者の申請により、帰国した日（海外にある間に死亡した場合にあっては、死亡の判明した日）の属する月まで、旧退職年金に相当する給付を行う。旧退職年金受給資格を有することとなるべき日が経過したときも同様とする。なおこの場合年金の額は、総裁が定める仮定俸給の4月分に相当する金額とする。（原田種達）

ちょうきょりうんてん 長距離運転 (英) long run 機関車運行には機関車と機関車乗務員の運行とを同一とする方式と、機関車運行を機関車乗務員運行と全然別個のものとして、組む方式とがある。昭和12~13年ころまではもっぱら前者の方式が行われていたが、その後機関車の性能および保守状態が向上するに伴って、機関車の長距離にわたっての運行が可能となり、後者の方式が採用されている。この方式をロングランともいい、機関車は長距離にわたって同一列車を牽引(けんいん)して運転し、途中駅における機関車付替作業をなくし、また機関車の所要数を減少して使用能率を高めることができる。現状における機関車長距離運転の限界は、蒸気機関車は石炭積載量によって制限され、だいたい400km前後で、現在最長のものは小樽・釧路間(427km)をC57形式で行っているものであり、電気機関車はさらに蒸気機関車よりもロングランが可能なので、現電化区間ではその全長にわたって長距離運転が行われている。（藤田 一）

ちょうこうせん 長広線 函館本線札幌駅を起点とし、広島市街を経て室蘭本線由仁駅を終点とする長広本線と、南幌向線他3支線とからなる国鉄自動車路線で、所管する長沼自動車営業所を北海道支張郡長沼町に、恵庭支所を同千歳郡恵庭町に設置している。



1 区間およびキロ程	
長広本線	札幌・由仁 41 km
	白石市街・白石 1
南幌向線	行幸橋・幌向市街 11
	夕張太・千歳橋 4
三川線	千歳橋・追分 29
	本安平・登川 33
恵庭線	広島市街・恵庭 17
	島松・下山口 5
長恵線	中央長沼・漁 22
	車舞鶴・大学橋 5
	長勝寺前・多良津 14

2 沿革

長広本線	札幌・由仁	昭22・3・20 開業
	白石市街・白石	昭22・3・20
南幌向線	行幸橋・幌向市街	昭28・11・28
	夕張太・千歳橋	昭32・2・10
三川線	千歳橋・三川	昭26・12・8
	三川・追分	昭27・10・10
	本安平・登川	昭31・10・10
恵庭線	広島市街・北広島	昭23・3・20
	柏木・恵庭	昭23・3・20
	北広島・柏木	昭26・8・18
	島松・下山口	昭26・8・18
長恵線	中央長沼・漁	昭24・3・15
	長勝寺前・古山	昭30・9・5
	東舞鶴・大学橋	昭32・2・10
	古山・多良津	昭32・5・18

3 営業範囲

長広本線および恵庭線は旅客・手小荷物および貨物、中央長沼・由仁間は貨物、その他の区間は旅客および手小荷物の運輸営業を行っている。

4 鉄道との接続駅および業務委託駅

- (1) 接続駅 札幌・白石・由仁・三川・北広島・島松・恵庭。
- (2) 業務委託駅 中央長沼。

5 使命 長沼地帯の開拓を促進し、交通に恵まれない長沼および広島周辺町村と札幌との直結、その他鉄道線の短絡を使命とする。

特に積雪の多い下山口・島松間は例年12月から翌年4月まで運転を休止するが、その他の区間は冬期間も除雪して運転を確保している。

6 特長 路線のほとんどが石狩平野を運行しているので、輸送物資は米穀類が多いが、現状では旅客輸送に重点がおかれている。とくにこの路線の開設により、札幌市との交通が短縮されたので、利用客が多い。（福田幸市）

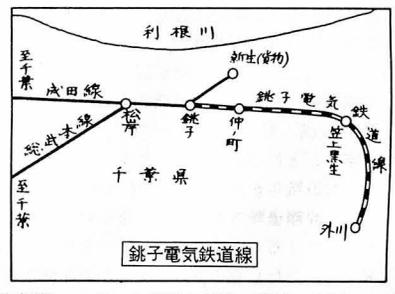
ちょうさやく 調査役 本社の総裁室・審議室・幹線調査室・職員局および支社におかれ、総裁・室長・局長または支社長の名を借りて調査・審議する職である。（加藤誠次郎）

ちょうしてんきてつどう 銚子電気鉄道

1 事業者の概要

名称 銚子電気鉄道株式会社 本社千葉県銚子市新生町、資本金400万円、おもな事業 地方鉄道業、従業員56人、保有車両電気機関車1、電動客車5、客車2、貨車2両。

沿革 大正11・6 国鉄銚子駅から外川に至る鉄道敷設免許を受け、同12・7 銚子鉄道株式会社として営業開始し、同14・7 全線を電化した。戦後企業再建整備法にもとづいて銚子電気鉄道株式会社を創立し、昭和23・6 許可を受け、同年8月事業いっさいの譲渡を受けて現在に至る。



2 地方鉄道線 千葉県下において総武本線銚子駅に連絡し、銚子・外川間6.4kmの単線、旅客・貨物運輸の鉄道である。動力は電気、軌間は1.067mで大正11・6・20 免許を受け、同12・7・5 運輸開始した。